

言葉のおもさ

岐阜市立厚見中学校 3年
西垣 壮真(にしがき そうま)

私の仲間は最高です。例えば、面白いことを言って場をにぎやかにしてくれるムードメーカーや、周りの仲間に誠実で、みんなから愛される人、機知に富んでいて話がとても弾む人、他にもいろいろなタイプの人がいる私の仲間は、本当に最高の仲間たちです。一筋縄ではいかないこともたまにあるけれど、だからこそ日々は充実しているし、私はこの仲間や日々は、生涯忘れられない、最高の思い出になると確信しています。

しかし、嫌で、悲しかったこともあります。ある日唐突に、セクハラとされてもおかしくないあだ名で呼ばれたのです。屈辱だったし、衝撃でした。私は、自分が彼らに何かしてしまったのかと思わずにいられませんでした。けれど、彼らは冗談で呼んだだけで、私を貶そうとはしていませんでした。しかし、それは私を傷つけ、最高の思い出に影を落としたのです。

みなさんは「ペンが剣よりも強し」という言葉を知っていると思います。これは、言葉というものは、時に直接的な暴力よりも強い力を発揮するという意味です。主に、作家や記者が、自分が書いた文で世に訴え、それを変えようとする時など、肯定的に使われることが多いです。私もそれがこの言葉の正しい使い方だと思っています。

しかし、私は思うのです。「ペンが剣よりも強し」とは、「言葉はときに直接的な暴力より残酷だ」とも捉えられるのでは、と。暴力は良くないことですが、棘のある言葉や嫌な言葉も、暴力と同じではないでしょうか。言葉には力があります。その力の使い方を間違えれば、「剣よりも強し」つまり、相手の心を強く深く傷つける。

事実、私は「ペンが剣よりも強し」の悪い面が強く表われているところを知っています。たとえば SNS です。SNS は確かに多くの人を幸せにしていますが、ブレーキのない言葉の刃は、同じくらい多くの人を不幸にしているのではないのでしょうか。

私達は多くの言葉を持っています。その中には、他者を傷つけ馬鹿にする言葉もありますが、それ以上の数の人を応援し、癒す言葉があるのです。「がんばって」と言われたらどんどんやる気が出るように、私達は良い言葉や温かい言葉を選び使うことで、相手の活力を出すことすらできるのです。

だから私は、大きな声で主張します。誰かに言葉を伝える前に、その言葉は「相手を傷つけるもの」ではないか考えて欲しいと。

仲の良い仲間でも、親しき仲間にも礼儀ありですし、相手を大切に思うなら、良い言葉にするべきでしょうし、嫌なこともいいことも考えて言葉を使うことで、みんな幸せになれると思います。

ところで、私は最近ようやく、嫌な言葉に対して嫌だと言えました。すると、完全にはなくならなかったけれど、嫌な言葉は減りました。この「嫌だ」の中にあつた勇氣と、信頼も含めて理解してくれたのです。

このことから私は、「言葉のおもさ」を考えて使えば、より健全な友情が育めることを知りました。

私はこのことを胸に刻んで、より最高の仲間になれるように、これからも温かい言葉をかけ合う日々を積み重ねていこうと思います。

私の仲間は最高です。